

## 高金利通貨およびオーストラリア・ドル、カナダ・ドル マンスリー・レポート



**ブラジル**



**メキシコ**



**トルコ**



**南アフリカ**



**オーストラリア**



**カナダ**

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は信頼できると判断した情報にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。

設定・運用 明治安田アセットマネジメント株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第405号  
加入協会：(社)日本証券投資顧問業協会/(社)投資信託協会



## ブラジル



**【足元の金融市場の動き】～ ブラジル・レアルは利上げ、資源・エネルギー価格の下げ止まりを受けて上昇～**  
 ブラジルでは、金融引き締めの影響から消費、生産関連指標とも景気の減速傾向を示す指標が多くみられるようになりまし。政策金利は0.25%引き上げられ12.25%となりました。ブラジル・レアルは利上げ、資源・エネルギー価格の下げ止まりを受けて上昇しました。

**【当面の金利・為替の見通し】～ ブラジル・レアルは金利先高観も根強いことから底堅い動きか～**  
 景気については、利上げにより過熱感が後退しています。しかし今後も社会資本整備のための高水準の公共事業が執行される予定があることなどから経済成長が続くとみられます。物価上昇率については政府の目標の上限値(6.5%)を僅かながらも上回った状態が続いておりインフレ懸念が強まっています。利上げは最終局面を迎えつつあるとみられますが、今後も小刻みに複数回の実施が予想されます。ブラジル・レアルは、資源・エネルギー価格が膠着状態となっている一方で金利先高観も根強いことから、底堅い動きが続くとみられます。



## メキシコ



**【足元の金融市場の動き】～ メキシコ・ペソは投資家のリスク許容度の低下から下落～**  
 メキシコでは前月に続き小売売上高、消費者信頼感指数などの個人消費関連指標が予想を下回り、失業率も上昇するなど景気回復の鈍化がみられました。製造業関連指標についても好調な自動車生産を除き減速感がみられました。政策金利は4.5%に据え置かれています。メキシコ・ペソは5月末にかけて堅調に推移した後、世界的な株価の調整を受けて投資家のリスク許容度が低下したことから下落しました。

**【当面の金利・為替の見通し】～ メキシコ・ペソは景気、エネルギー価格を睨みつつレンジ内での動きか～**  
 景気については、米国景気や消費の減速が不安視されていますが、米国景気がソフトパッチ(一時的な減速)であるとみられること、自動車などの輸出産業が堅調であることから回復が続くと考えられます。政策金利については物価が落ち着いており当面据え置かれるとみています。メキシコ・ペソは当面国内景気、エネルギー価格動向を睨みつつレンジ内での動きにとどまると予想しています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



## トルコ



### 【足元の金融市場の動き】～トルコ・リラは下落後、株価の反発もありもみ合いに転じた～

トルコでは消費関連指標が好調であること、鉱工業生産(前年比)の上昇ペースが減速したものの依然として高い伸びであることなど、緩やかな景気拡大が続いています。政策金利は1月から6.25%に据え置かれています。トルコ・リラは5月末にかけて軟調に推移した後、ギリシャへの追加支援が6月末までを目処に策定されることになりユーロ圏の債務国問題が小康状態になったことや、株価の反発もあり、もみ合いとなりました。

### 【当面の金利・為替の見通し】～トルコ・リラは他の新興国・高金利国通貨同様にレンジ内で弱含みか～

景気については内需中心に拡大しています。貿易収支については4月は小幅に改善しましたが、内需が好調な一方で外需が弱いことから赤字傾向が続くとみられます。海外からの直接投資やユーロ圏向け輸出の増加が期待されていますが、累積対外債務の改善には時間を要するとみられます。政策金利については据え置かれ、物価、為替政策は預金準備率の調整で対処するとみられます。トルコ・リラはエネルギー価格が膠着状態となったことは支援材料ですが、当面は他の高金利国通貨同様にレンジ内での動きにとどまるとみています。



## 南アフリカ



### 【足元の金融市場の動き】～南アフリカ・ランドは堅調に推移した後、小反落～

南アフリカの政策金利は5.5%に据え置かれています。南アフリカ・ランドの対円での動きは、金相場が反発し堅調に推移したことや1～3月の実質GDP成長率が市場予想を上回ったことに加えて、米国の大手小売企業による企業買収が認可されたことを受けて資本流入期待が広がったこともあり、6月上旬にかけて堅調に推移しました。その後は世界景気の減速懸念から資源国通貨が売られたことから小反落しました。

### 【当面の金利・為替の見通し】～南アフリカ・ランドは底堅く推移～

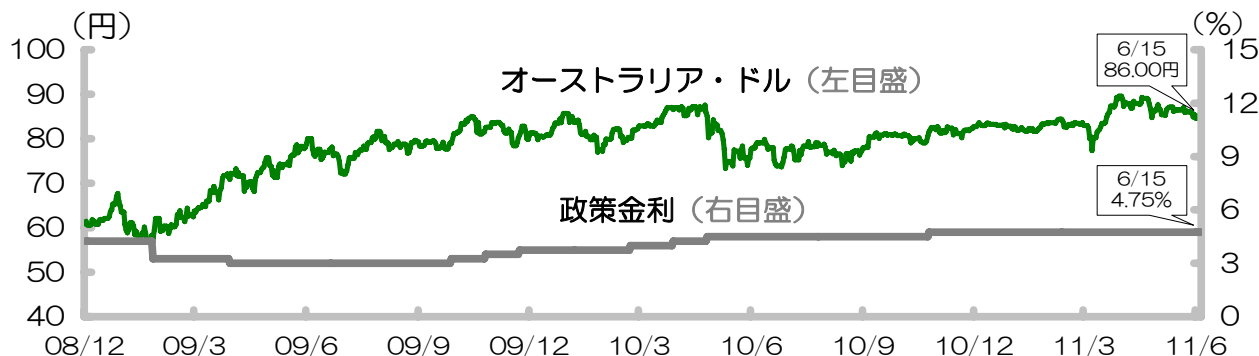
南アフリカの1～3月期の実質GDP成長率は、主に製造部門が寄与したことから+4.8%(前期比年率)と景気回復が加速したことが確認されました。一方で失業率が依然として高水準にとどまっていることや、4月の消費者物価指数も+4.2%(前年比)と目標インフレ率のレンジの中間(+4.5%)より低い水準にとどまっていることから、当面は現行の政策金利が継続されるとみられます。南アフリカ・ランドは現行の政策金利のもとで同国の景気が緩やかな回復基調を続けるとみられることから底堅く推移するとみています。

データ出所: Bloomberg, 目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



## オーストラリア



### 【足元の金融市場の動き】～オーストラリア・ドルは上昇後、利上げ見送りから反落～

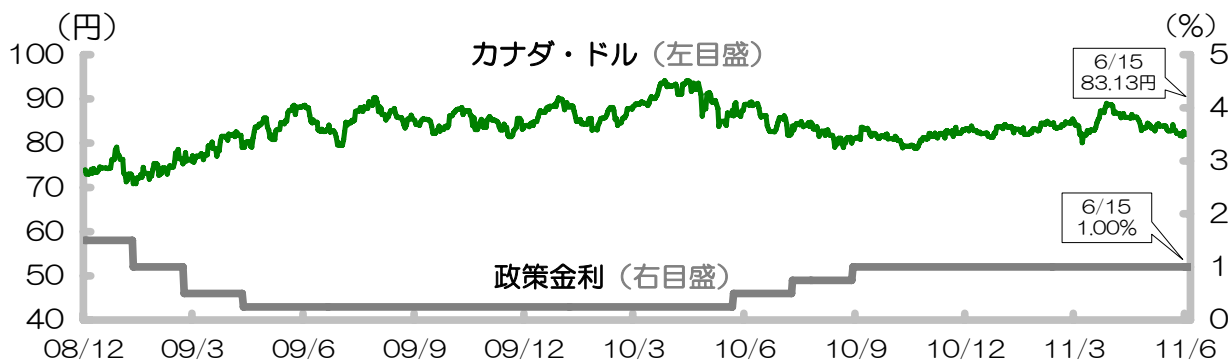
オーストラリアでは雇用や個人消費関連指標の悪化が続きました。生産や住宅関連の指標は市場予想を上回りましたが、景気減速を示すものとなりました。政策金利は4.75%に据え置かれています。オーストラリア・ドルは、利上げ観測が広がっていましたが、経済指標への失望、利上げが見送られたことなどから反落しました。

### 【当面の金利・為替の見通し】～オーストラリア・ドルは資源価格、金利先高観測などからレンジ内での推移か～

景気については、1～3月期の実質GDP成長率が前期比でマイナスとなったことや、新興国におけるインフレ圧力や金融引き締めによる景気鈍化の予想などから、先行きの不透明感が強まっています。しかし、高水準の資源開発投資、洪水被害の復興需要を受けて景気は短期間で持ち直すとの見方もあります。金融政策については消費者物価の上昇に対する警戒から同準備銀行は引き締めスタンスを維持するとみられます。オーストラリア・ドルは資源・エネルギー価格が膠着する一方で金利先高観測もありレンジ内での動きになるとみえています。



## カナダ



### 【足元の金融市場の動き】～カナダ・ドルは米国の景気減速懸念などから小幅に下落～

カナダでは、1～3月の実質GDPが+3.9%(前期比年率)となりました。3月の小売売上高は予想を下回り、4月の消費者物価指数はほぼ予想通りとなりました。政策金利は1.00%で据え置かれました。カナダ・ドルは、ギリシャの債務問題の深刻化や米国や中国の景気減速懸念を受けた投資家のリスク回避姿勢の強まりに加えて、資源・エネルギー価格の膠着から小幅に下落しました。

### 【当面の金利・為替の見通し】～カナダ・ドルは米国景気や欧州債務問題への懸念から上値の重い展開か～

景気については、消費関連指標が弱含んだことに加えて、貿易統計にみられるように自国通貨高による輸出の停滞から貿易収支が悪化したことなどが懸念されます。また政策金利については、消費者物価指数が前年比3%を超える水準まで上昇した一方、自国通貨高による輸出への影響が懸念されることから、中央銀行は利上げに対しては様子見姿勢を続けるとみられます。カナダ・ドルは、利上げ観測がある一方で、主要貿易先である米国景気や欧州債務問題に懸念が残ることからレンジ内での動きになるとみえています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

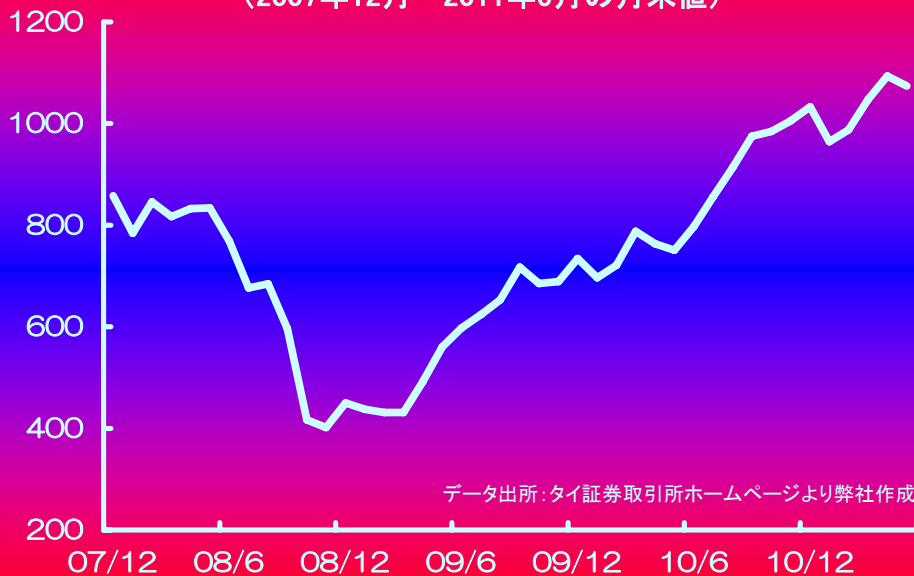
●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



## 【タイに選挙の夏がやってくる】

タイでは7月3日に約3年半ぶりとなる総選挙が行われます。アピシット首相が下院を解散したことから、約半年の前倒しとなりました。2006年9月にタクシン元首相が軍部のクーデターで追放されてから、タイの民主主義は不安定な状態が続いています。農民や都市部の貧困層を中心としたタクシン支持派(いわゆる「赤シャツ隊」と、官僚やビジネスマンなどの既得権層を支持者とした民主党(いわゆる「黄シャツ隊」と)の対立が先鋭化しています。それでも、株式市場(SET指数)はリーマン・ショック後の安値となる380台ポイントから、今年4月下旬の高値となる1100ポイント台まで3倍近く上昇しました。また、タイ・バーツはドルに対して2009年3月の安値となる36バーツ台前半から、昨年は30バーツ割れまで上昇し、直近でも高値圏の30バーツ台前半で推移しています。2007年12月の総選挙後には、「黄シャツ隊」の空港占拠と旧タクシン派政権の転覆、2009年には「赤シャツ隊」のデモによる東アジア・サミット中止、2010年4月には「赤シャツ隊」によるバンコックの中心部占拠、などの混乱はまだ記憶に新しいところです。今回の総選挙では、タクシン氏の妹を首班とするプアタイ(タイ貢献)党と、現政権の民主党の激しい選挙戦が予想されています。これを契機に民主主義が前進するか、それともさらに国民の間で亀裂が深まるか、軍部クーデターに対する懸念も残ることから、金融市場にとって注目材料のひとつとなりそうです。

タイ株式相場(SET指数)の推移  
(2007年12月～2011年5月の月末値)



※SET指数に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はタイ証券取引所に帰属します。

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。